

令和2年2月の現況と3月の対策（野菜）

現況（2年2月20日現在）

1 施設野菜

果菜類

(1) 大玉トマト

福井地区の抑制栽培は、2月中旬で収穫終了した。

南越、若狭地区の越冬栽培は、継続収穫中である。

半促成栽培は、福井地区では12月下旬から自家育苗、1月下旬から購入苗での育苗が始まっており、2月下旬から定植開始予定である。南越地区では、3月上旬に定植開始予定である。

夏越栽培は、若狭地区では12月末定植で1段果房開花、坂井地区では2月上旬定植で順調に活着している。

(2) ミディトマト

坂井、二州、若狭地区の促成長期どりは、20～27段果房が開花し、11～19段果房を収穫中である。草勢はやや強めに推移している。

灰色かび病が少発、葉かび病、コナジラミ類が微発である。

坂井地区では2月上旬から、プラグ苗を鉢上げし育苗が始まっている。3月中旬から定植開始予定である。

(3) ミニトマト

若狭地区の越冬栽培は、22～23段果房が開花、15～16段果房を収穫中である。

(4) キュウリ

福井地区では、3月上旬に定植予定である。

(5) スイカ

坂井北部丘陵地では、2月8日から播種が始まり、2月20日頃から接ぎ木が行われている。

(6) メロン

坂井北部丘陵地では、プリンスメロンが2月5日から播種が始まっている。マルセイユメロン、アールスメロンは2月下旬から播種が始まる予定である。

(7) イチゴ（高設）

各地区で収穫が引き続き行われており、生育が早いところでは第3果房、遅いところでは第1果房が収穫中である。

葉菜類

(1) 軟弱野菜

福井地区のハウレンソウは、11月下旬～12月上旬播種を約80～85日で収穫中である。生育期間の気温がやや高めで推移しており、生育は平年より早く進んでいる。

(2) 青ネギ

若狭地区の周年水耕栽培は、10月中旬播種分を収穫中である。播種から収穫までの日数は、約110～116日である。

根菜類

(1) コカブ

三里浜砂丘地では、継続出荷中である。

(2) ダイコン

三里浜砂丘地では、2月10日から播種が始まっている。

2 露地野菜

気温は秋以降やや高めに推移し、降雪がほとんどなかったため、生育は全体的に早く進んでいる。

果菜類

(1) 一寸ソラマメ

坂井、若狭地区では、平年より早く生育は旺盛である。

葉菜類

(1) キャベツ

秋冬どりは、水田地帯や坂井北部丘陵地で、継続収穫中である。

坂井北部丘陵地の春どりは、本葉10～12枚となっている。

(2) ブロッコリー

南越地区では、初夏どりの播種が1月下旬から始まり、育苗中である。

(3) ネギ

秋冬どりは、収穫終盤～終了している。

越冬春どりは、葉鞘径が福井、奥越地区で10～18mmとなっている。

今年の秋冬どりの播種・育苗が各地区で始まっており、二州地区では1月上旬、福井地区では1月中旬、坂井、奥越、若狭地区では2月上旬から行われており、南越地区では2月下旬から行われる予定である。

(4) 勝山水菜

奥越地区では、高温で推移したことから生育が平年より早く進み、2月2日から福井市場に出荷されている。

根菜類

(1) ニンジン

三里浜砂丘地では、2月下旬で収穫終了見込みである。

(2) カンショ

坂井北部丘陵地では、12月中旬からキュアリング品を出荷しており、6月末まで予定している。

2年度産は、2月中旬から育苗が始まっている。

(3) ラッキョウ

三里浜砂丘地では、2月下旬から追肥が行われる予定である。

(4) タマネギ

永平寺町では、草丈22～40cm、葉鞘径7～13mmとなっている。

坂井地区では、定植が早いもので、草丈約30cm、葉鞘径8～8.5mmとなっている。

若狭地区では、定植が早いもので、草丈約19cm、葉鞘径約5mmとなっている。
高温に推移していることから、生育は平年より早めに進んでいる。

(5) ニンニク

永平寺町では、草丈24～28cm、葉鞘径5～11mmとなっている。

対 策

3月は気温の日較差が大きく、ハウスやトンネル内の温度変化も大きくなるので、日中は高温による苗の萎れや葉焼け等の発生防止に努めるとともに、夜間は保温管理を徹底する。そのため必ずハウス内に最高最低温度計を設置し、常に温度変化に留意しながら適正温度になるよう管理する。また、越冬野菜については追肥が遅れないようにする。

1 施設野菜

果菜類

(1) 育苗後半の管理

ア 充実した苗に仕上げるため、早めに株間を広げて苗の徒長を防止する。また、晴天日には苗床のトンネルを早めに開放する。

イ 定植1週間程度前からは苗床の温度を下げ、過剰なかん水を控えて、定植後の環境条件に耐えられるよう苗の馴らしを行う。なお、急激な低温に遭ったり、極端な温度変化などで苗が萎れたりすると、奇形果や雌花の着生不良、生育の遅延の原因になるので、最低夜温の目安はメロン、スイカでは約15℃、キュウリでは約13℃、トマトでは約12℃以上を保つ。

(2) 圃場の定植準備（地温の確保）

ア 有機物施用および施肥は、遅くとも定植10日前までには完了しておく。また、内張カーテン・トンネル・マルチ等の保温資材の設置は、定植1週間前までには行い、地温が十分確保できるように努める。

イ 圃場が乾燥している場合は、定植2～3日前にかん水を行い、定植までに地温を回復させておく。

ウ 定植苗の初期生育を促すためには、定植時の最低地温の確保が不可欠である。活着に必要な最低地温は、トマト、プリンスメロンで15～16℃、スイカで16～18℃、キュウリ、メロン（自根）で18℃を確保しておく。

(3) 定植

ア トマトでは1段花房1花開花時、キュウリ、メロン、スイカでは本葉3～5葉期が定植適期である。

イ 定植は天候のよい日の午前中に行い、ハウス内の温度が下がり始めるまでにトンネルを被覆して保温する。

ウ 低温日に無理に定植すると活着不良で生育が遅れ、場合によっては植え直しとなることもあるので、天候の回復を待って定植を行う。

エ 植付け時のかん水は、鉢土と周囲の土がなじむ程度に手かん水で行い、過かん水による地温低下を避ける。低温時はできれば20℃前後の温水を利用して活着を促進させる。

(4) 生育期の管理

ア トマト

(ア) 生育初期に低温に遭遇すると、中段果の乱形果や低段果のケロイド症果等の被害果の発生

原因となるため、低温時や夜間の保温管理を徹底する。

- (イ) 生育促進の目安として、気温は午前中25～28℃、午後20～25℃、最低夜温12～13℃程度を目標に管理する。また、かん水は必要最少量とし、地温低下防止と根の発達を促進する。

イ キュウリ、メロン、スイカ

- (ア) 活着期は日中午前28℃、午後25℃、夜間14℃程度を目標に管理する。なお、無加温栽培では、夜温を確保するため午後20℃を下回るようになったら早期にハウスを閉め、トンネルを被覆して保温に努める。
- (イ) 特に、メロンでは定植直後に目標着果節の花芽が分化するので、温度管理や定植苗の萎れには注意する。

ウ イチゴ

- (ア) 3月以降の温度管理について、夜温を上げすぎると徒長や果実の品質低下の原因となる。日中の温度は20～23℃、夜温は8℃以上を基本とし、日中の温度が25℃前後になるころからハウスサイドを全開にして換気する。
- (イ) 灰色かび病は多湿条件下で発生しやすいので、施設内の換気に努め、枯葉や古葉をきれいに取り除いて早期防除に努める。併せて、うどんこ病やハダニの防除も行う。

葉菜類

(1) 軟弱野菜

- ア 収穫期に近づいたホウレンソウやコマツナ等は、気温の上昇とともに急激に葉が伸び始めるので、収穫遅れにならないよう、計画的に収穫作業を行う。
- イ ホウレンソウは、べと病予防のためかん水を控えてハウス内が過湿になるのを避けるとともに、防除薬剤の発生前の予防散布に努める。

2 露地野菜

果菜類

(1) 果菜類全般

- ア 圃場準備として、圃場内の排水対策等は晴天の日を見計らって、早めに施工しておく。
- イ 有機物の施用は、定植の1か月前までに行い耕起して土となじませておく。
施肥は、定植10～14日前までに行い必要に応じてトンネル・マルチを設置して地温を高めておく。
- ウ 定植予定2～3日前に十分にかん水をして、定植時には地温を回復させておく。

(2) イチゴ

枯れた葉や古葉をきれいに取り除いて病害発生を防ぐ。

(3) 一寸ソラマメ

- ア 親茎を切り取り、太い茎を6本程度残して、早めに追肥を行う。
- イ 不織布等のトンネルは、茎がトンネルにつかえるようになったら除去する。
- ウ 開花期に発生する茎は早めに除去する。

根菜類

(1) ダイコン

ア 3月中～4月中旬が播種時期となる。圃場準備の際に土を練らないようする。

イ 12～13℃以下の低温に遭遇すると花芽分化（抽苔）が誘起されるので、播種期が早いほど晩抽性の高い品種を用いる。3月中の播種はトンネル＋マルチ＋べたがけ、4月上旬播種はトンネル＋マルチ等を用いて、保温管理を徹底する。

ウ 発芽揃いをよくするため、マルチ等は早めにしておき、地温の上昇を図っておく。

エ 好天が続くことが予想される日を選んで播種し、畝ごとにトンネル被覆をして、早めに保温を開始する。

オ 生育前半は、葉焼けが発生しない程度に保温に努め、生育を促進する。

(2) ニンニク、タマネギ、ラッキョウ

球の肥大開始までに十分な生育量を確保するため、早急に追肥を行う。また、雑草が発芽する前に除草剤散布を行う。

葉菜類

(1) 春どりキャベツ

球の肥大を進めるため、ただちに追肥、中耕を行う。

(2) 越冬ネギ

株傷みの回復と伸長を進めるため、ただちに追肥、必要に応じて土寄せを行う。